



ジュゴン Vol.118

ちゃんぷるニュース

SDCC 2021. 9. 28
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・衆院選で自公政権に審判を
● 辺野古・大浦湾シンポジウム
- 4/5 不承認支持のアクション
● 各地の取り組み報告
- 6/7 交流広場
● わんさか通信★ジュゴンのわ
● コラムー物の見方と考え方



コロナ禍で、猛暑で、大雨でたいへんな夏でした。大雨の影響で野菜が高騰、異常気象が続くと食糧不足が心配になってきます。マヨネーズのような軟弱地盤は、土砂を入れても入れても埋め立てられないのではない、なのに辺野古の工事は止まりません。兵器産業って何でしょう？戦争をすると儲かるひと握りの人たちの富のために、多くの命が犠牲になるなんて…。戦争をするための軍事基地なんてどこにもありません。

ジュゴンは生きている

私たちの暮らしは便利になったけれど、プラスチックのゴミだらけの海なんて…。使い捨てって寂しい言葉だな。人も物も大切にしていないのだと思います。電化製品に囲まれて快適な暮らしを続けているけれど、そのためにどれほどのエネルギーを使っているのでしょうか。その結果、気候危機を招いているなんて。多くのエネルギーを生み出していた原発、安全だったはずが重大事故を起こして放射能をまき散らしました。アンダーコントロールはされず、汚染水はたまり続け、いよいよ海に流すというのです。水に流せば済む問題ではないのに。他に方法が無いわけではないのに。

熱波によって世界のあちこちで、アマゾンで森が燃えています。このまま森が焼失し続ければいったいどうなるのでしょうか？想像するだけで息苦しくなってきます。工場や自動車の排ガスなどで、都会の空気は汚れてしまい、私たちの肺も弱っているようです。コロナ禍で人間活動が止まったら、空がきれいになったなんて、なんと皮肉なことでしょう。

もう人間中心のやり方では立ち行かないのだと思います。人間が引き起こした危機ならば、人間が何とかしないとね。「人新世の『資本論』」が読まれているようです。資本主義を終わらせましょう。さて、どこから始めていきましょうか。限りある地球という星で生きていくのだから守らなくちゃね。

沖縄の海で、ジュゴンは、まだ生きている！

ジュゴンが生きられる地球は、きっと人間も生き続けられる。

辺野古の海にジュゴンが帰ってきてくれるように、もうこれ以上、海を壊すのを止めたい。

(関西 池側恵美子)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



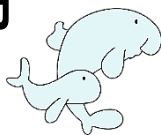
9/5 新宿駅前の「辺野古ブルーアクション」(4面)



8/15 靖国神社前で遺骨混じり土砂の辺野古埋立への使用に反対を訴える具志堅さん(4面)

情勢（事務局）

退陣させたのは市民の力～11月衆議院選挙で自公政権に審判を



「菅首相では衆議院選挙が戦えない」とする自民党内からの声で、菅首相は自民党総裁を辞任、いま自民党総裁選挙が行われています。辞任直前の菅首相の支持は32.1%、不支持は61.3%でした（8/23 産経新聞）。コロナ禍の五輪中止を求める国民世論を無視して、支持率アップを狙った五輪強行に市民の怒りは湧きあがりました。菅首相が地元横浜市長選挙に子飼いの大臣を「横浜ではカジノ反対」と二枚舌の立場で立候補させたことで18万票の大差で敗北したことも市民の怒りからです。学術会議人事への介入やコロナ対策について国民に説明を尽くさない政治への不信感が退陣に追い込んだのです。9年にわたる安倍・菅政権による密室政治、森友、加計、桜を見る会の公文書改ざんは政治の私物化の象徴です。自民党総裁選挙ではなく、コロナ対策のための臨時国会を開くべきです。

安倍・菅政権は沖縄県民の基本的な人権を無視し、差別と分断を持ち込みました。「辺野古が唯一」と防衛省は、辺野古3区の行政委員会に補助金各1300万円を出すなど沖縄県、名護市を分断してきました。米軍による発がん性物質の下水道垂れ流しに沖縄県や市民が抗議していますが、「日米環境管理基準に適合している」と放置したままです。沖

縄県が新基地建設計画を撤回しても、安倍・菅政権は法制度を無視し新基地建設を強行しています。多くの行政法学者らが「自治権の侵害」と反対してきたからこそ、今年6月全国知事会も「国の介入の見直し」を提言することになりました。

軟弱地盤や環境問題、埋め立て土砂問題など新基地建設反対運動の広がりにより米政府は動揺しています。米海兵隊の基本戦略「2019年次報告書」から辺野古基地建設に関する工事計画が削除され、米上院軍事委員会のリード委員長はその理由を調査するとしています。辺野古サンゴ訴訟で最高裁判事2人が反対したことも影響を与えています。（世界9月号 p132 平安名純代論文）。沖縄防衛局の環境監視等委員3人が英国雑誌に投稿した「沖縄ジュゴン絶滅論文」は科学的観点から「大幅な訂正」を要求されています（7月13日）。具志堅隆松さんらが闘う沖縄戦犠牲者の遺骨混じりの土砂採掘問題には国内外から支援の輪が広がっています。沖縄県の設計委変更不承認が、コロナ感染対策や沖縄防衛局への第5次質問などで、10月以降になりました。設計変更不承認を支える闘いで、11月衆議院選挙で命と暮らしを守る政治を実現しましょう。



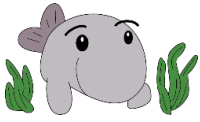
「誰のための、何のためのオリンピックですか」

菅首相が自民党総裁を退陣し、いま自民党総裁選挙の真っ最中です。コロナ対策の緊急事態宣言も9月30日まで延長されて2か月半。入院制限や自宅療養（放置）などは国民皆保険制度を解体するもので許してはなりません。世論調査でオリンピック開催が「良かった」56%、「良くなかった」32%（朝日新聞8月9日）としていますが、良かったのは何なのでしょう。国境を越えた選手の競技力と、スポーツパーソンシップに励まされたことではないでしょうか。「五輪より国民の命を」とする国民世論を、「反日的な人が開催に反対している」と罵倒した安倍元首相らの政治利用を許すことはできません。

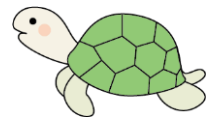
東京オリンピックに来日した米国体操女子のシーモン・バイルスさんが競技途中で棄権（7/27）。史上最多6

個の金メダルを獲得していた彼女が「五輪の1年延期や無観客などでストレスが多かった。チームがメダルを失うリスクを冒せなかった」と告白しています。2度のカウンセリングを受けて平均台の試合に復帰、銅メダルを獲得しました（8/3）。「私たちは人間であって、単に人を楽しませるモノではない」とも言っています（8月4日ロイター）。米国テレビネットワークNBCはIOC（国際オリンピック委員会）に巨額の放映権を支払って、米国体操女子などお家芸の決勝戦がゴールデンタイムに放映できるように編成を実現していました。IOCの商業主義や国家主義高揚のためのオリンピックを見直すべきではないでしょうか。（事務局 蛭川義章）





「辺野古・大浦湾シンポジウム 2021」を振り返って

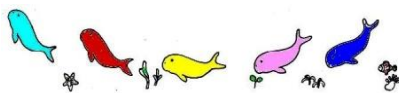


2021年9月11日、沖縄県主催による「辺野古・大浦湾シンポジウム 2021」がオンラインで開催された。辺野古・大浦湾沿岸一帯の環境を守るためのホープスポットの認定。辺野古新基地建設が強行される中明らかになった建設地の脆弱地盤の問題。この2点を焦点にしたシンポは、玉城デニー沖縄県知事による沖縄防衛局の埋立て設計変更申請の不承認が間近に迫るなか、重要な意味を持ったといえる。以下パネリストとして参加した立場から振り返ってみたい。

脆弱地盤とホープスポット

2部構成のシンポジウムは、沖縄の宝である辺野古・大浦湾の自然環境を保護していくというデニー知事の決意の挨拶から始まった。1部ではまず、日本大学の鎌尾彰司氏が脆弱地盤の問題の深刻さを分かり易く整理して説明した。基地建設の無謀さを多くの人が認識できたと思う。日本自然保護協会の安部真理子氏はホープスポット認定の理由と認定の過程を丁寧に説いた。安部氏のこれまでの活動が辺野古・大浦湾のホープスポット認定を可能にしてきた。それゆえテレビのアオサンゴを沖縄県の天然記念物に登録を求める安部氏の呼びかけは重みを持っていた。1部の締めくくりは、ホープスポットの取り組みの主体米国 NGO ミッションブルーの代表、シルビア・アール氏によるビデオメッセージであった。「生態系を守ることが究極の安全保障」という訴えは多くの人の心に残ったはずだ。

2部は筑波大学の吉田正人氏がファシリテーターを務め、ホープスポット認定の理解を深めるためのパネルディスカッションが行われた。国土館大学の中井達郎氏は、辺野古・大浦湾を「海と山の出会う場所」と捉え、地形の多様性と長島の鍾乳洞の科学的価値を分かりやすく説明した。沖縄県立芸術大学の藤田喜久氏は、大浦湾における甲殻類の新種の発見に言及し、更なる調査が必要であることを強調した。



私が強調したこと

私も2部で参加したが、辺野古・大浦湾のある名護市の市民、SDCCという環境NGOのメンバー、そして人類学者という立場で話をした。私が強調したことは以下の3点である。1点目は、辺野古・大浦湾で起こっていることは、環境問題であり、基地/平和問題であり、民主主義の問題であること。その繋がりを意識して問題解決に取り組む必要があり、そのためには専門家の視点だけではなく市民の視点が重要だということ。2点目は、今回のホープスポットの認定は、基地建設の政治的軍事的重要性は認識しながらも、豊かな環境を守ることの必要と建設に反対する市民の取り組みが評価されたこと。アール氏の「生態系を守ることが究極の安全保障」という発言はこの評価の意義を端的に表し、「辺野古が唯一」という日米政府の主張へのアンチテーゼになっていた。

3点目は、脆弱地盤の問題を沖縄県が米政府にきちんと伝えることの必要性である。脆弱地盤の問題が表にでて約2年、県も情報発信を行ってきはずだが、米国連邦議会調査局、会計検査局、国防総省の報告書ではきちんと取り上げられていない。これでは「辺野古が唯一」のスタンスを変えることはできないということ。

世論に押し上げよう

シンポジウムの終わりの挨拶で玉城デニー知事は、私の指摘に言及し、県としても脆弱地盤の詳細な情報を米側にきちんと提供していくと述べてくれた。脆弱地盤の問題の詳細を知れば、辺野古新基地建設の実現性を問題視する連邦議員や政府関係者は確実に増えるはずだ。私たち市民社会も、これまでの議論に加え、実現性が疑問視される辺野古基地建設の戦略的妥当性の問題や、「辺野古が唯一」への固執が普天間の危険性の除去を不可能にすることを世論に押し上げていく必要がある。今回のシンポジウムは今後の取り組みの方向性を確認させるものであったといえる。

(国際担当 吉川秀樹)

辺野古・大浦湾シンポジウム 2021 は以下のリンクから視聴できます。

<https://www.youtube.com/watch?v=yCg6LgqT7zI>



首都圏

「辺野古ブルーアクション」！ブルーを身につけて、「不承認」を支持しよう！



辺野古新基地建設の変更申請に対して、沖縄県知事による設計変更「不承認」の判断が、10月以降になりました！
政府が沖縄県に申請している設計変更承認を、沖縄県知事が「不承認」と判断すると、埋め立て工事がストップし、新基地を作ることが出来なくなりますから、県知事による「不承認」の支持を強めることが大事です。

首都圏では、「美ら海守れ！！沖縄県民の民意を守れ！沖縄県の設計変更「不承認」を支持する辺野古ブルーアクション」を進めています。

- ① 知事の設計変更「不承認」の発表の翌日に（金曜日の場合は月曜日）官邸前緊急行動を行う。
- ② 不承認発表から1週間は、個人やグループ、団体などで辺野古を象徴する何かブルーのものを身にまといながら、不承認のアピール行動をする。
- ③ 不承認発表後の金曜日に再度、官邸前で国会包囲美の呼びかけで集会を行う。

という内容です。



県知事の不承認を後押しするために、あらゆる機会を利用してのアピール行動が重要です。「埋めるな連」では、9月5日新宿駅南口で約50人がブルーを身につけて、サンゴ移植の惨状の写真パネルを掲げて訴えました。

これからも、ブルーのものを身につけて「不承認」のアピールを続けましょう！（首都圏 宮城韶子）



大阪アクション7周年集会報告

～具志堅隆松さんのお話～

8月22日大阪のPLP会館で大阪アクションの7周年イベントがあり参加して来ました。講師は、具志堅隆松さん（沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表）です。具志堅さんは、何年にも渡って戦没者の遺骨収集に尽力されている方です。最近では、全国戦没者追悼式前に、日本武道館近くでハンストをして現状を訴えていらっしたことも記憶に新しいかと思えます。会場はお話を聞きたいという方で、例年にない参加がありました。それだけ具志堅さんのされている活動に注目があるということかと思えます。

遺骨が埋められている状態などから、どのようにして亡くなったのかななどを説明していただきました。

被爆することでバラバラになってしまい遺骨がまとまらな形で発見されることは少ないそうです。40年近く搜索発見されることは少ないそうです。40年近く搜索されているのにまだまだ遺骨が眠っているということは、どれだけ多くの方が犠牲になったかがわかります。不発弾がまだ多く残っているために大きな道具が使えないことも進まない理由だとお聞きしました。

戦争がもたらすものの悲惨さは後世に伝えなければいけない！また遺骨が埋まっている土砂を辺野古新基地建設に使うということは2度殺すことと同じ、戦争の道具にしてはいけない！多くのことが学べた1日でした。

（関西 上田千鶴）



講演する具志堅隆松さん



小坂小学校での出張授業（記事は次ページ）

報告

今年の「宮森・630を伝える会」

1959年6月30日に起きた「沖縄・宮森小学校の米軍ジェット機墜落事件」を、首都圏で語り継ぐために、「宮森・630を伝える会」があります。

毎年夏に、宮森・630を伝える会、原爆の図丸木美術館、ピース・ニュース、平和を実現するキリスト者ネット、東京YWCA、明治学院大学国際平和研究所、SDCCが協力し合って、映画上映や講演会を行って12年目を迎えました。

7月17日、「ふたたび琉球列島が戦場に！辺野古密約ってなあに？」と、題して講演会を行いました。今年の1月25日に共同通信と沖縄タイムスが報じて大問題となった「辺野古に陸自の水陸機動団を常駐させるという2015年の陸上自衛隊と米海兵隊の極秘合意」をスクープした、共同通信の石井暁さんに、「辺野古密約の実態とその意味」を講演して頂きました。

また、コロナ禍の中、厳しい闘いを続けている「辺野古現地の闘い」を、会員が報告しました。会場とオンライン配信で100名余の方々が、首都圏だけでなく、東北や九州、四国、北海道、カナダなどから参加しました。

(首都圏 宮城韶子)



関西

小阪小学校でジュゴンと基地のお話しをしました

東大阪市立小阪小学校の6年担任の先生から”平和教育といえばヒロシマ・ナガサキとなっていて、子どもたちは沖縄のことはあまり知らない、沖縄のこともしっかり学んでほしい”と声をかけていただき、7月15日に関西スタッフ3人で、出張授業に出かけました。

6年生の2クラスに「ジュゴンってどんな生きもの?」「ジュゴンと辺野古の基地」「沖縄戦と米軍基地」のテーマでお話ししました。みんな、熱心に聞いてくれたし、質問すると、だれかが手を挙げて答えてくれる、とても元気な子どもたちでした。

出張授業後、「子どもたちは折り紙ジュゴンを折り、平和へのメッセージをまとめました。2学期には運動会でエ

イサーをし、作品展で首里城の瓦を使ったシーサーを作ります。これからも沖縄のことを学び続けていきたいです」と先生からうれしいお便りがありました。

子どもたちの感想文から『人類の大きすぎるミス』

ぼくはたった今、うめたてられようとする海は、人類にとってもジュゴンにとっても、大切な「カギ」になってくると思ったので、これからもジュゴンたちがステラカイギウのようなひさんな結果にならないように遠くからだけど、気持ちを少しでも伝えたいと思いました。

(関西 山根富貴子)



☆沖縄ジュゴンをまもりたい！第2次ネット署名を開始しました☆ ご協力をお願いします

9月6日から、辺野古埋め立て工事の中止とジュゴンの調査を求める第2次ネット署名を始めました。

目標は5万筆（第一次は紙版、英語版含め3万2千筆です）集約は11月末です。5万筆はこの問題を社会的に訴えるために最低限必要な数だと思います。

今年1月から5月に取り組んだ第1次署名は、英語版、紙版とあわせ3万2千筆あつまり、5月28日の防衛省交渉で提出しました。そしてジュゴンの鳴音公開を求める伊波洋一議員の国会質問ともつながって、環境配慮事項を守らない政府の姿をあぶり出しました。

第2次署名では、「ジュゴン絶滅論文」を執筆した環境監視等委員会の委員3名の解任を新たな要請項目に加えました。防衛省は御用学者を使って、なくすしに沖縄ジュゴンを絶滅したことにしたいのです。しかし環境省の調査でも、昨年6月古宇利島で

ジュゴンの食み跡が発見されています。非科学的なデマを「論文」にする御用学者にジュゴンの保全策を語る資格はありません。即刻解任するべきです。

ぜひ5万筆を集め、11月末の防衛省交渉で提出します。玉城デニー知事の設計変更不承認判断を後押しし、工事の中止を実現したいです。

(関西 松島洋介)

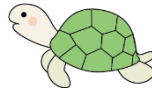
署名 URL https://www.change.org/save_okinawa_dugong



署名QRコード

今回、アメリカ人と一緒に、ニューヨークの街頭やホワイトハウス前で沖縄の基地反対や反核のアクションを続ける大竹さんから、メッセージをいただきました。

Stand with Okinawa in ニューヨーク



現場の声を現場に届ける。沖縄を訪れ抗議船に乗せていただき、ゲート前ですわりこみ、塩川や安和でトラックの前に立ち、現場のエネルギーをNYのアクションの場に持ち帰り、伝える。そしてNYの活動でもらう元気を沖縄に持ち帰る、そんなことをここ数年、続けています。

NYは市民活動が盛んで、ベトナム戦争時代以来、現役の反戦・平和活動家、核廃絶をこれまた何十年も続けている人、地球の環境破壊への危機感にいてもたってもいられない若い世代、マイノリティそして先住民のまっとうに生きる権利

↓昨年1月、グランドセントラル駅でのフラッシュモブ



の破壊に声をあげる人たちなど、戦争の危機・環境と人権破壊にノーの声をあげ、行動を続ける人があとをたたく、そんな彼らが、アメリカ市民としての責任に心を痛め沖縄反基地支援の活動に参加してくれています。

2016年には、いくつもの反戦・平和団体が「基地反対」を軸に連帯しようという機運がもりあがり、その中で「沖縄」が大きな脚光を浴びました。ホワイトハウスの請願サイトに20万人以上の署名が集まった時には、ホワイトハウス前で抗議イベントを企画し、三線演奏にあわせてうちなーんちゅの方が琉球の舞を舞い、ホワイトハウスに向けて「まきてー、ないびらんどー」とアメリカ人も一緒に声を上げたのも、辺野古を本拠地とする「Stand with Okinawa」のNY支部としてハイライトとなるできごとでした。

基地建設で破壊される生物多様性に富むちゅら海には、世代を超えて多くの人々が心を痛め、ジュゴンは大の人気のもの。いただいたじゅごん帽は、道行く人々の目をひきつけ、アクションになごみを与え、多くの人々の心をあたたく開く、わたしたちの活動のうれしいシンボルになってくれています。(ニューヨーク在住 大竹秀子)

左端の人はじゅごん帽かぶってますね！多くのアメリカ人がとともに声を上げてくれていることに感激！元気が出ます。これからもどうぞよろしくお願ひします！

本の紹介

ジュゴンの帰る海 — マカトとザンのものがたり

作・浦島悦子 絵・なかちしずか (出版:ハモニカブックス)



ジュゴンの絵本が出版されました！ぜひ、みなさまに手に取ってほしいです。作者は名護市在住の浦島悦子さん。SDOC とのご縁は長く、じゅごんの里ツアーでは毎夏、名護市東海岸で地域の歴史や文化、自然散策などをガイドして頂いていました。キャンプシュワブのゲート前で一緒に座り込みをしたこともあります。

物語の舞台は名護市安部。主人公のマカトとザン(ジュゴン)のふれあいを通して、自然豊かな海の大切さ、戦争の愚かさ、基地は造ってはいけないということが描かれています。何より「ザンは神さまのおつかいだよ。大切に仲よくすれば、私たちを守ってくれる」のメッセージが心に残ります。



「ジュゴンたちは自然からのさまざまな『ことづつ』を運んできてくれました。私たちが『野生の力』を信じ、やるべきこと、やってはいけないことを守っていけば、この地にジュゴンたちが戻って来る日も遠くはないでしょう。地球の自然生態系の一員であることを忘れてしまった人間への警告というべき新型コロナ禍のその先に、ジュゴンとともに生きられる世界をめざして」とあとがきにあります。沖縄の海でジュゴンはまだ生きている。そして、私たちに勇気を与えてくれている。

子どもたちへの読み聞かせにもお薦めです。みんなで楽しめる素敵な絵本です。

(関西 池側恵美子)

物の見方と考え方 - ~こらむ・コラム~

突然、菅が総裁選を辞退。間髪入れず安倍が高市早苗を押し。すると岸田も河野もトーンダウン。女性天皇容認論を引っ込め「敵基地攻撃能力検討」やら「辺野古基地建設を維持する」やら、結局、軍国主義天皇制国家の復活を目論む自由民主党の正体を曝け出した。故に、次期総裁が誰になると衆院選での自民党勝利は困難にも思われた。しかし、野党4党が自民党離れを国民に促すことは容易ではない。相手は、明治国家の末裔安倍晋三だ。

案の定、ここぞとばかり北朝鮮が長距離巡航ミサイルを発射、実験の成功を大々的に報じて見せた。軍事力で国民を支配する北朝鮮が、米日同盟を脅威として利用していることは明白。故に日本が憲法9条を守る非武装国家になってはまずいということ。同様に北朝鮮を脅威と煽り、国民に恐怖を与えて防衛予算を増大させてきた自由民主党にとって、北朝鮮は利害の一致するパートナーということになる。だから、どんどんミサイルを発射してくれた方が都合が良い。安倍が北朝鮮を天皇制維持に利用できると気づいたのは、拉致問題で平壤に行った時からか。

その後、第一次安倍内閣で教育基本法を改悪し、美しい国日本を取り戻すことを宣言。「君が代」「日の丸」を教育現場で強制し、沖縄戦強制集団死教科書記述改竄を文科省が強制。森友学園で教育勅語を子供達に教える事を企らんだが失敗。それにも懲りず、5月31日東京都教科用図書選定審議会場で東京都教育委員会が配布した『教科書研究資料』に、神武など神話に登場する11の神名を「歴史上実在した人物」と列挙明記しているから驚く。

神武東征とは、ヒミコがジュゴン信仰で大乱後疲弊した人々を救い、倭国を建国したその事績のこと。その歴史を持統天皇と藤原不比等が隠蔽改竄（いんぺいかいざん）、後継ぎの天皇教育目的に日本書記に纏めた嘘の話が、初代神武天皇の話である。読書家だった山口県萩の吉田松陰がその歴史を信じ、明治維新の志士達に影響を与え、それが明治維新国家の皇国史観となった。そして、その嘘を守る天皇制国家の犠牲になっているのがジュゴンの平和主義である。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

① わんさか通信 ★ ジュゴンの①

ノンストップで来年こそは！

7月末に「名護東道路が全線開通」しました。

2年連続じゅごんの里ツアーが中止になりましたが思い出して下さい、今までは高速道路の最終ICを降りてから辺野古方面に行く為に最初の交差点（世富慶）までお馴染みの渋滞でしたよね。それが信号なしで名護市街地（伊佐川）まで行くことが出来るようになりました。（もちろん世富慶にあり♪）



信号なしでスムーズ
名護東道路が全線開通

→ともにも、週刊タイムス住宅新聞 (93) 沖縄タイムス社より

時短による北部観光地域の活性化や住民の市街地の渋滞緩和に期待されています。

なんと工事開始は2001年、全線開通まで20年かかっているそうです。

「道の駅許田」もリニューアルしたそうですよ、ドラゴンフルーツのソフトクリームが新発売され、その名も「ドラピカルソフト」鮮やかなピンク色。

アフターコロナに皆さんで食べたいな。

(沖縄 小平裕美)

<首都圏>

・10/24(日) 団結まつり きゅりあん(品川区立総合文化会館)
11:00~15:00 Youtube 配信あり <https://youtu.be/9HqHFpfSRHQ>

玉城デニー知事の設計変更不承認判断時には、緊急街頭キャンペーンを行います。情報は SNS にて発信いたします。



《 今後のスケジュール 》

<関西>

・10/23(土) とめよう! 戦争への道 めざそう! アジアの平和
関西の集い 2021 14:00 開会 エルシアター

講演: 柳沢協二 国会報告: 高良鉄美(参議院委員)

・10/31(日) 団結まつり 扇町公園 10:00~15:00

・11/23(火) 祝) 枚方多文化フェスティバル 10:00~15:00

岡東公園

玉城デニー知事の設計変更不承認判断時には、緊急街頭キャンペーンを行います。情報は SNS にて発信いたします。

「IUCN 第7回世界自然保護会議が開催」

9月3日から11日まで、国際自然保護連合(IUCN)第7回総会が「一つの自然、一つの未来」をテーマに、フランス・マルセイユで開かれました。新型コロナ感染拡大で1年延期され、リモート含めて9200人が参加。正式に先住民地域共同体が参加しました。会員総会には「生物多様性の損失と気候変動、人々の健康に及ぼす影響」をテーマに議論。生物多様性保全のために陸上、内陸水域、沿岸・海洋域の30%以上を保全することを決定。また、COVID-19パンデミックの影響に対抗するために①自然への投資を促進すること②自然にプラスをもたらす経済に移行すること。気候変動による影響に立ち向かうために①温室効果ガスの排出量を早急に削減すること②グローバルな対策を最適化するために、すべての人が行動できるようにすることを確認しました。IUCN親善大使のイルカさんによるIUCNの歌「We Love You Planet」が録画で流され、新役員には、ラザン・ムバラク会長らが選出されました。(事務局・蜷川義章)



「遺骨で辺野古を埋めるな!」
8/22 大阪アクション7周年集会で講演する具志堅隆松さん

お詫びと訂正

116号(5月25日号)4面の関西記事の左3行目で、「沖縄線で亡くなった方」という記述がありました。「沖縄戦で亡くなった方」が正です。お詫びして訂正いたします

Editor's Note

TVの報道番組は自民党総裁選挙にジャックされてしまった。河野、岸田、高市、野田、いずれも安倍、菅政権で閣僚や党の要職を勤めた。誰も安倍、菅に苦言の一言も言ったことはない。コロナ無策と新自由主義を転換する政権交代が必要だ。今、全国の自治体で「遺骨で辺野古を埋めるな」決議が上がっている。ぜひこれを市民と野党の共通政策にしてもらいたい。(M)

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.118 2021年9月28日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-21
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号京橋ベース
(旧野口ビル) 302 TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140-9-660199
他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店
口座番号 普通 8159084

ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!



SDCCのwebsite
<http://www.sdcc.jp/>
には、左記QRコードより
アクセスできます